



# THROWBACK

## Artists :

Yuuka Ishii / Daisuke Ida / Shuhei Yamada / Satoru Tamura  
 Genpei Akasegawa / Kimiyo Mishima / Bruce Nauman  
 Jasper Johns / Jeff Koons / Robert Rauschenberg  
 Tom Wesselmann ...and more

## Period :

January 24 Friday - February 22 Saturday

このたび、TEZUKAYAMA GALLERYでは、1月24日（金）より企画展「THROWBACK」を開催いたします。

本展では、ポストモダン芸術の重要な潮流の一つである「シミュレーションイズム」を起点に、過去から現代に至るまでの幅広い年代のアーティストを取り上げることで、美術における「引用」と「流用」といったアプロプリエーションの手法に焦点を当てます。

シミュレーションイズムとは、1980年代半ばにニューヨークを中心に登場した美術運動であり、大量生産・大量消費の時代に生まれた複製技術や急速な情報化といった時代的背景を受けて発展しました。この運動は現代に至るまで多くのアーティストに影響を与え続けており、本展ではその主要な要素に加えて、ネオダダ、ポップアート、コンセプチュアルアートといった前駆的な潮流のアーティストにも触れながら、アプロプリエーションの手法がどのように誕生し、今日の美術表現に繋がったのかを概観する事を目的とします。

また、本展で紹介するアーティストたちは、既存の芸術表現や社会的なイメージを記号化し、それを再構築することで新たな視点や解釈の在り方を鑑賞者に投げかけます。彼らの作品を通して、アプロプリエーションの手法が現代においても重要な表現手段として機能し、いかにして新たなイメージや文化的な問いを生み出しているのかを探ります。

今展を通じて、美術における「引用」と「流用」の歴史とその変遷を追いながら、新たな創造の可能性について鑑賞者に再考を促し、また、過去から現代へと受け継がれる美術の流れを感じ取って頂ける機会となれば幸いです。

是非、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

1980年代のニューヨークを中心に展開された、ベンヤミンの近代芸術の唯一性（アウラ）に背を向け、大衆芸術からの盗用（アプロプリエーション）を積極的に推し進めた美術運動。J・ボードリヤールの『シミュラクルとシミュレーション』（竹原あき子訳、法政大学出版局、1984）を理論的典拠としたその運動の軌跡は、高度資本主義の発達と並行して、「ポップ・アート」が示した方向性をさらに先鋭化するものであった。代表的作家としてはP・ハリー、S・レヴィーン、B・クルーガー、M・ビドロらが挙げられるが、いわゆる「ファイン・アート」の解体と情報資本主義批判という二面性をもっていた彼らの活動も、冷戦終結後の世界再編によって変質を余儀なくされている。なお日本でも、80年代末の一時期『美術手帖』誌がこの動向を積極的に紹介し、とりわけその本質を「カットアップ/サンプリング/リミックス」のキーワードによって説明した榎木野衣の言説は、日本において同様の試みを目指す若手作家にとって、格好の援護射撃となった。

（現代美術用語辞典 1.0 より）

## 石井佑果 | Yuuka Ishii



1995年香川県出身。2019年多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒業2022年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画専攻修了。

ステレオタイプな西洋絵画を連想させるモチーフや筆致の引用、あるいはアルファベットやトランプカード、ピアノの楽譜といった記号的な要素の羅列や編集による絵画作品を制作。膨大な量の「絵画」と呼ばれるものの中から取捨選択する方法と判断、またその描き方によって、絵画の成立とその無数の組み合わせについての検証を行なっている。

主な展示に、「Eudaemonia」(2024 / Gallery Common / 東京)、O JUNキュレーション展「幸福惨憺世界・Dat+石井佑果+山脇紘資+O JUN」(2024 / ミズマアートギャラリー / 東京)、「大逆走」(2024 / same gallery / 東京)、「3cmと3km -対岸を眺める-」(2023 / TEZUKAYAMAGALLERY / 大阪)、「2人展：塩原有佳、石井佑果」(2022 / Satoko Oe Contemporary / 東京)、「あつけらかんの眺め」(2021 / KOMAGOME1-14cas / 東京)など。

image caption | untitled (2024), H530× W410mm

## 井田大介 | Daisuke Ida



1987年鳥取県生まれ。2015年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。

彫刻という表現形式を問いながら、彫刻・映像・3DCGなど多様なメディアを用いて、目には見えない現代の社会の構造やそこで生きる人々の意識や欲望を視覚化している。16年からは、世界中の人々がインターネット上にアップロードしている匿名的な画像を素材として、インターネット以降のモノや身体の内を彫刻する「Photo Sculpture」を継続的に制作している。

主な展示に、「遠距離現在 Universal / Remote」(2024 / 国立新美術館ほか / 東京)、「SYNOPTES」(2023 / TEZUKAYAMA GALLERY / 大阪)、「日本国憲法展」(2023 / 青山目黒 / 東京)、「EASTEAST\_TOKYO 2023」(2023 / 科学技術館 / 東京)、「Grid Island」(2022 / SeMA(ソウル市美術館) / 韓国)、「あなたが鳴らしても鐘は止まない」(2021 / デカメロン / 東京)など。

image caption | Superscription Sculpture #2 - 着られた指 (2019), H300×W120×D130mm

## 山田 周平 | Shuhei Yamada



1974年生まれ、京都市在住。アイロニーとユーモアをベースに現代社会に対する考察を通じて制作を行う。写真、映像、立体、平面、と様々な形式を展開しながら、ミニマルかつコンセプチュアルな作品を制作している。2013年、アーモリーショーのキュレーション部門において、当時アンディウォーホル美術館(ピッツバーグ)館長のエリックシャイナー(現 Pioneer Works ディレクター/ニューヨーク)により唯一の日本人として選出され、様々なメディアで話題となった。

主な展示に、「MIKADO2: Do You Know Me」(2024 / Sokyō Annex / 京都)、「MIKADO2: ワニのための"フーガ"」(2024 / ザ・トライアングル(京都市京セラ美術館) / 京都)、「ただ踊るだけ/Just dance」(2024 / Der-Horng Art Gallery / 台湾)、「逃走、キャンセル、自由、反抗、逸脱、切断、ロマン」(2023 / ARTRO / 京都)、「Next World—夢みるチカラ タグチ・アートコレクション×いわき市立美術館」(2021 / いわき市立美術館 / 福島)、「WISH KISS LOVE HOPE」(2017 / AISHONANZUKA / 香港)など。2003年、写真新世紀優秀賞受賞。2017年、ISCPレジデンスプログラム(ニューヨーク)に参加。主なコレクションにタグチコレクション。

image caption | Untitled (2024), H324×W250mm

## タムラサトル | Tamura Satoru

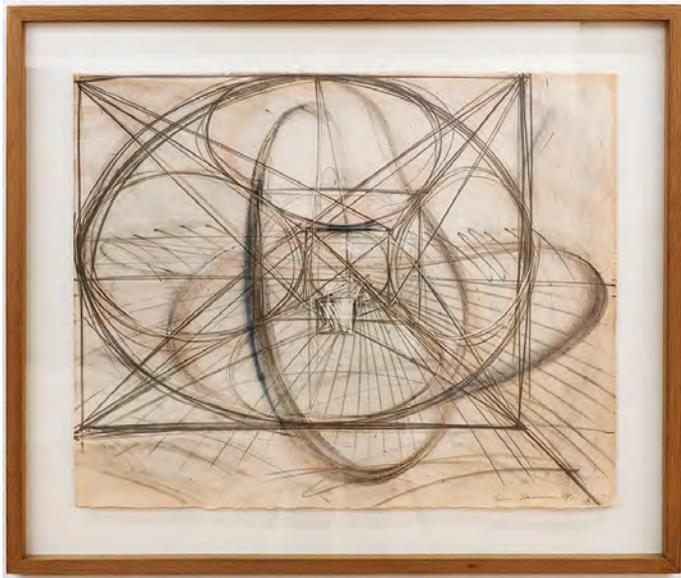


1972年栃木県生まれ。1995年筑波大学芸術専門学群総合造形卒業。「意味の破壊」をテーマに制作を行い、チェーンやスプロケットで構成された動き続ける数字や図形、回転するワニや後退するクマといった機械仕掛けの大小様々な作品、映像作品、白熱灯が明滅を繰り返すインスタレーションなどを国内外で発表している。回転・接触・点滅・移動などを組み合わせて無目的に動き続ける作品は、機械としての有能性をなくし、すべてのものが「意味」や「機能」から解放され、ユーモアとウィットに富んだ芸術として鑑賞者の前に現れる。

主な展示に、「無目的な機械 AIMLESS MACHINE」(2024 / DH Neology / 台湾)、「Sydney Contemporary 2023」(2023 / Carriageworks / オーストラリア)、「ワニがまわる理由は聞かないでほしい」(2022 / TEZUKAYAMA GALLERYほか / 大阪)、「ワニがまわる タムラサトル」(2022 / 国立新美術館 / 東京)、「Connect #2」(2021 / MAKI Gallery / 東京)、「100の白熱灯のための100のスイッチ #5」(2021 / 川越市立美術館 / 埼玉)など。

image caption | 2kg Horse (2004), H370×W350×D250mm

その他、出展予定作品



A



B



C



D



E

image caption

A | ブルース・ナウマン / Untitled(Salmon Pink) / 1971 / リトグラフ

B | ジェフ・クーンズ / Balloon Dog (Blue) / 2015 / 磁器

C | 三島喜美代 / Cola / 2020 / 陶器

D | 赤瀬川原平 / 大日本零円札 / 1967 / オフセットリトグラフ

E | ジャスパー・ジョーンズ / 1ST ETCHINGS, 2ND STATE / 1969 / エッチング, ドライポイント

## 展覧会概要 | Exhibition Information

## THROWBACK

2025.1.24 [FRI] - 2.22 [SAT]

## [Artists]

石井佑果 | Yuuka Ishii, 井田大介 | Daisuke Ida, 山田周平 | Shuhei Yamada

タムラサトル | Satoru Tamura, 赤瀬川原平 | Genpei Akasegawa, 三島喜美代 | Kimiyo Mishima

ブルース・ナウマン | Bruce Nauman, ジャスパー・ジョーンズ | Jasper Johns, ジェフ・クーンズ | Jeff Koons

ロバート・ラウシェンバーグ | Robert Rauschenberg, トム・ウェッセルマン | Tom Wesselmann

...and more

\*出展アーティストに変更が入る可能性があります。詳しくはお問い合わせ下さいませ。

## [営業日 / OPEN]

火曜日 - 土曜日 12:00 - 19:00 | TUESDAY - SATURDAY 12:00 -19:00

## [休廊日 / CLOSE]

月曜日, 日曜日, 祝日 | MONDAY, SUNDAY, HOLIDAYS

## お問い合わせ | CONTACT

## [会場]

TEZUKAYAMA GALLERY

(〒550-0015 大阪市西区南堀江1-19-27 山崎ビル2F)

## [お問合せ]

Mail | [info@tezukayama-g.com](mailto:info@tezukayama-g.com) (企画担当: 岡田慎平)

Tel: 06-6534-3993

## [webサイト]

<https://tezukayama-g.com/>